

# みやま



## 学校も芽吹くとき

浅春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

早いもので、年度を締めくくる3月を迎えました。「芽吹く」この時期にピッタリの言葉です。「樹木の芽が出はじめる。新芽が萌え出る」という意味ですが、同時に「ある気持ちや物事が新たに生じ始める」という意味合いも含まれます。移りゆく日本の季節と日本語の豊かさを感じることのできる言葉です。「希望の道」の桜のつぼみも、春を待つかのように膨らんでいます。

学校では、6年生を送る会、そして、6年生にとって小学校最後の授業である卒業式を予定しています。同時に、どの学年も学習や生活のまとめ、新学年への準備が始まります。次のステップをひかえ、期待と不安も高まりますが、ぜひ、今の自分を見つめると共に、「なりたい自分を見つける」そんな時間を見つけてほしいと思います。

保護者の皆様、お子様の1年間の成長について振り返り、新年度に向けての心構えができますよう、よろしく願いいたします。



## 子供たちの笑いあふれる街 尾崎

ある日、コンビニのレジで順番待ちをしていた時のこと。私の前で会計をしていた高校生が携帯をかざして支払いをしていました。なんの変哲もない光景ですが、会計を済ました高校生は「ありがとうございました」とはっきり店員さんにあいさつをし、後ろで待っている私に少し会釈をして帰りました。その気持ちの良い立ち居振る舞いに、ふと、自身の態度を振り返るきっかけをもらいました。

「しつけ」は「躰」と書き、漢字の通り「立ち居振る舞いの美しさ」をいいます。子供は無邪気に遊んでいるうちに、大人たちの立ち居振る舞いを観察し、それをマネしたくなり、試行錯誤を楽しみながら、いつしか身につけます。しつけは厳しい家庭のルールと思う方もいますが、これが本来のしつけです。教育者「森信三氏」は、3つのしつけとして「あいさつ」「はいの返事」「履き物をそろえる」といっています。そして、「あいさつは、大人が誘い水を与える」ことが大切であるともいっています。

今日も、子供たちの元気な「おはようございます」の声で、1日がスタートします。また、学校では、「先生、あんなあ…」という屈託のない会話が教室や運動場から聞こえてきます。これが、本来子供たちの持つ自然な立ち居振る舞いなのでしょう。その元気な声や無邪気度とりとめのない話を聞く度に、心地よい楽しい気持ちになります。

もうすぐ4月、新年度のスタートも間近です。

保護者・地域の皆様、ご家庭で、また、地域の公園等で子供たちの楽しそうな笑い声が聞こえますか？どれもみな尾崎の街から消してはならない姿です。

大人は子供や若者から（元気）をもらい、子供は大人の姿から（生き方）を学びます。（今回、私は高校生から学びました…）いつの時代もこの繰り返しの営みが地域を継続・発展させてきたことは明らかです。

子供たちの楽しい笑い声であふれる、尾崎の街の真ん中にいつも尾崎の子がいる、そんな学校を保護者と学校運営協議会そして地域の方々とこれからも一緒に作り上げたいです。

保護者の皆様、地域の皆様、1年間ご協力いただきありがとうございました。